

救急医療センター

■GIO :

生命予後や機能予後に関わる疾患や損傷、緊急を要する病態や傷病に適切に対応できるようになるために、救急患者や緊急事態に対する適切な対応・初期診療能力を身につける。日常的に遭遇する機会の多い疾患や損傷に対する診療能力を身に付ける。緊急患者や集団災害に対応できるように、救急医療システムや災害医療システムを理解する。

■SBOs :

1. 意識レベルとバイタルサインの把握ができる。
2. 身体所見を迅速かつ的確にとる事が出来る。
3. 緊急度と重症度を判断できる。
4. 二次救命処置(ACLS) ができ、一次救命処置(BLS) を指導できる。
5. 複数患者搬入時の際、緊急度、重症度による治療優先順位を判断できる。
6. 集団災害時のトリアージについて説明できる。
7. 各種検査の立案・実践・評価ができ、緊急度の高い異常所見を指摘できる。
8. 各種基本手技の実践ができる。
9. 頻度の高い救急疾患・外傷の初期治療ができる。
10. 重症外傷、軀幹外傷においては、JATEC に基づく診療ができる。
11. 重症患者の呼吸・循環管理を適切・迅速に行うことができる。
12. 医療用モニターの測定原理の理解・準備・測定値の評価ができる。
13. アラーム発生時対応ができる。
14. 循環作働薬の特徴・臨床薬理を挙げられ、適用を判断し使用することができる。
15. 必要に応じて抗菌薬の選択をすることができる。
16. 想定される合併症のリスク判断ができ、予防策を講じることができる。
17. 中毒・熱傷・環境起因疾患の治療を行うことができる。
18. 中毒については、中毒独特の特殊な治療の要否について判断することができる。
19. 急変時チームリーダーの実践ができる。
20. 専門医への適切なコンサルテーションができる。
21. 患者の入院の可否、帰宅の可否について、社会的背景も考慮しつつ判断することができる。
22. 患者の社会背景に留意することができる。
23. 救急患者に同伴してきた家族の心情に思いを寄せ、患者の現状について、適宜、適切に説明することができる。
24. スタッフ(医師・看護師・コメディカル部門) と良好なコミュニケーションをとることができる。
25. 救急車乱用の実態について現状を把握し、わが国の今後の救急医療、高齢者医療について意見を述べる事が出来る。

■LS :

1. 救急外来での“On the job training”が中心になる。
 - ① 軀幹外傷においては FAST を習得する。
 - ② 創処理については、局所麻酔の方法、皮下組織の洗浄、一次縫合の可否、縫合時の運針、死腔の防止、縫合の強弱・間隔、止血方法などについて指導・監視する。
 - ③ 外傷患者の診察方法を学び、特に副損傷を生じないように留意する。
 - ④ 外傷患者の診察に於ける除痛に留意する。
 - ⑤ 外傷患者の被害者意識に配慮する。
 - ⑥ 胸部外傷に於ける胸部単純写真の読影に於ける着眼点について学ぶ。
 - ⑦ 単純レントゲン写真では判別できない損傷の性状について、CT, MRI の活用について学ぶ。
2. 指導医の指示に従い、チームの一員として患者の診療に当たる。
3. 救急カンファレンス等のカンファレンスに参加する。
4. 毎夕の 10 分カンファレンス（搬入患者の診療が続いていれば非開催）において、適切に質問を呈示する。

5. 院内講習会などに積極的に参加する。
6. インシデントレポートの作成・提出に留意する。
7. 全研修期間を通じて、救急医療センター / 時間外当直を行う。
 - ① 1年次：
 - 救急ローテート期間中は、救急医療センター医師、内科救急当番医、外科救急当番医などの指導医のもとで救急車搬入患者の初期治療にあたる。
 - 当直および日祝日の日直では、救急車搬入患者の初期治療に当直・日直の指導医とともにあたる。
 - ② 2年次：
 - 当直および日祝日の日直では、内科当直医の指導のもとで初期治療にあたる。
 - 小児科当直時には小児科当直医指導のもとで小児科初期治療にあたる。
 - 一年次研修医の教育を考慮した屋根瓦式研修を行う。

■Ev :

1. 自己評価：EPOCによる自己評価
2. 指導医による評価：
 - ① EPOCによる形成的評価と総括的評価
 - ② 患者、家族からの情報収集について、形成的評価を行う。
 - ③ 初期診療の手技について、欠落が無いかどうかについて、手技の良否について形成的評価を行う。
 - ④ 血液検査項目、レントゲン撮影箇所・方向・枚数などのオーダーの過不足について形成的評価を行う。
 - ⑤ 超音波検査、とくにFAST手技について形成的評価を行う。
 - ⑥ 外傷損傷に対する消毒、縫合などの手技について形成的評価を行う。
 - ⑦ 患者・家族に対する説明について形成的評価を行う。
 - ⑧ 緊急度の高い患者について、何を最優先に行うべきかの判断について形成的評価を行う。
3. 看護部、コメディカル等による360°評価：独自形式による形成的評価